I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 37
Horace Silver【ホレス・シルヴァー】
～ブルース・フィーリング溢れる名ジャズ・ピアニスト～

Photo from "Complete Recordings" / Horace Silver Quintet (Ais)

Profile

1928 年 9 月 2 日、米国コネティカット州ノーウォーク生まれ。本名は Horace Ward Martin Tavares Silva。カーボ・ヴェルデ人の父とアイルランド人とアフリカの混血の母の元に生まれる。幼少期より父親の影響で、カーボ・ヴェルデの民族音楽を聴いて育つ。10 代の頃にサックスとピアノを始め、ブギウギやブルースをはじめ、ジャズではセロニアス・モンクやバド・パウエル等に影響を受ける。ハートフォードの「サンダウン・クラブ」で自身のピアノ・トリオで出演していた時にスタン・ゲッツに声を掛けられ、50 年からゲッツのクインテットに参加しツアーに同行。同年 12 月にゲッツのアルバム『ザ・コンプリート・ルースト・レコーディングス』で初レコーディングを果たす。51 年にニューヨークに進出し、コールマン・ホーキンスやレスター・ヤング等と共演の機会を得る。52 年 10 月にブルーノートからデビュー・アルバム『ホレス・シルヴァー・トリオ＆アート・ブレイキー、サブー』を録音以降、77 年までブルーノート専属アーティストとして数多くのリーダー作を発表。その間、54 年にアート・ブレイキーと共に（第 1 期）ジャズ・メッセンジャーズを結成するが、ブレイキーとの確執が生じ、他のメンバーを引き連れて 56 年に独立。自己のクインテットを結成し、50 年代後半から 60 年代にかけてハード・バップ、ファンキー・ブームに起因する多くの名盤を吹き込んだ。62 年 1 月に自己のクインテットで来日を果たす。74 年からロサンゼルスに移住。1981 年から 88 年にかけては自主レーベル「Silveto」からアルバムを発表。90 年代はコロンビアやインパルスからコンスタントにアルバムを発表。元祖ファンキー・ジャズと称され、85 歳となった今もそのファンキー振りは健在。

HS's Great Album

ここに紹介した作品以外にも『ブローイン・ザ・ブルース・アウェイ』『ソング・フォー・マイ・ファーザー』『ドゥーイン・ザ・シング』『フィンガー・ポッピン』等、名盤多数。

ホレスの初リーダー・セッションを含む貴重なピアノ・トリオ作品！

ホレス・シルヴァー・トリオ＆アート・ブレイキー、サブー

ホレス・シルヴァー

（ユニバーサル・ミュージック：TOCJ-8649）

ホレス・シルヴァー（p）、ジーン・ラミー、カーリー・ラッセル、パーシー・ヒース（b）、アート・ブレイキー（ds）、サブー（conga）

1. サファリ 2. エカロー 3. プレリュード・トゥ・ア・キス 4. メッセージ・フロム・ケニア 5. ホロスコープ 6. ヤー（他、全 12 曲）

ホレスのニッポン愛が充満！ホレスが残した東京のブルース

ザ・トーキョー・ブルース

ホレス・シルヴァー

（ユニバーサル・ミュージック：TOCJ-8706）

ホレス・シルヴァー（p）、ジュニア・クック（ts）、ブルー・ミッチェル（tp）、ジーン・テイラー（b）、ジョン・ハリス，Jr.（ds）

1. トゥー・マッチ・サケ 2. サヨナラ・ブルース 3. トーキョー・ブルース 4. チェリー・ブロッサム 5. アー！ソー

ホレス・シルバーの隠れ名盤！ブルーノート27作目のリーダー作

27番目の男（イン・パースート・オブ・ザ・27th・マン）

ホレス・シルヴァー

（ユニバーサル・ミュージック：TOCJ-50505）

ホレス・シルヴァー（p）、ランディ・ブレッカー（tp，flh）、マイケル・ブレッカー（ts）、デヴィッド・フリードマン（vib）、他

1. リヴェレイテッド・ブラザー 2. キャシー 3. グレゴリー・イズ・ヒア 4. サマー・イン・セントラル・パーク（他、全 7 曲）

録音は 1952 年 10 月と 1953 年 11 月。ホレス・の初リーダー・セッションを含む、ホレスの初期の貴重なトリオ・レコーディング集。所々で早くも独特のファンキー節が炸裂し、ノリまくるホレスのプレイが最高。ホレスのオリジナル楽曲もカッコ良く、中でも「オパス・デ・ファンク」は必聴。アート・ブレイキーとサブーの 2 人の名脇役振りも注目。ピアノ・トリオのアルバムが少ないホレスの貴重な記録。ジャケットのデザインも渋い。

タイトル、曲名、ジャケットをはじめ、これだけ日本色の強い作品を出したジャズ・ジャイアンツはいないだろう。ジャケットで和服姿の日本人女性を両脇にはべらせて満面の笑みを浮かべるホレスの姿を見るにつけ、初来日の時に日本の伝統や文化がホレスの心にどれだけ印象強く残ったか窺い知ることができる。ジュニア・クックとブルー・ミッチェルのフロントの好演も光り、ホレスのファンキー節も冴え渡る。1962 年録音。

ランナー姿のホレスが迫るジャケットは良くも悪しくもインパクト大。冒頭の「リヴェレイテッド・ブラザー」でも眩い光を放つ若かりし頃のブレッカー・ブラザーズが参加。一番のお気に入りは「サマー・イン・セントラル・パーク」。メロディ・センスも最高で、心地良い程のデヴィッド・フリードマンのヴァイブ・ソロで始まる極上のバラード。ボブ・クランショウのエレベもアルバム全体にグルーヴ感とビート感を生み出す。1972 年録音。

ファンキーに生まれて

カーボ・ヴェルデ人の父親とアイルランド人とアフリカの混血の母親の元に生まれたことで、自然と身体に染み込んだラテン系のリズミカルなメロディーや黒人のブルース・フィーリング。その無類のファンキーさから、あのマイルス・デイビスに“本物のファンク”と言わしめたホレス。髪を振り乱しながら鍵盤に向かう何ともワイルド且つセクシーな姿が、そのファンキーさに一層拍車をかけた。ジャンプ・ナンバーは勿論、ミディアム、スロー・ナンバーまで、その独特のブルース・フィーリングは堪らなく最高。最初に始めたというサックスも聴いてみたかった。

リーダーとして

1954 年にアート・ブレイキーと共に結成したジャズ・メッセンジャーズから独立する際、ブレイキーを除くほぼ全員のメンバーを引き連れて独立を企てたのは有名な話。その後も主に自身のグループを率いてリーダーとして活躍し続けたホレス。名ジャズ・ピアニストとしての存在感だけでなく、リーダーとしての統率力と存在感も見逃せない。名門ブルーノートで約 25 年に渡り、30 作以上のリーダー・アルバムを残していることは驚愕に値する。尚、ホレスのグループで活躍した日本人ジャズマンに、ベーシストの藤原清登（1975 年に入団）がいる。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.10

~ Take The A Train【A列車で行こう】~

この曲は 1939 年にデューク・エリントンが楽団のピアニスト兼作編曲者だったビリー・ストレイホーンに作詞・作曲を依頼して作られたナンバー。1941 年にエリントン楽団のレコードとして発売され大ヒットした。その後も名スタンダードとして数多くのジャズ・アーティストにカヴァーされ続けるだけでなく、ザ・ローリング・ストーンズのライヴ・アルバム『スティル・ライフ』のオープニングで流れる等、ジャズ以外のジャンルでも広く愛されている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

デューク・エリントン『コンプリート・アット・ニューポート 1956』
クリフォード・ブラウン『スタディ・イン・ブラウン』
ベティ・ロシェ『A 列車で行こう』
美空ひばり『ジャズ＆スタンダード』
島裕介『名曲を吹く2』